

令和5年度

事業報告書

社会福祉法人 雄和福祉会

- ・特別養護老人ホーム花の家
- ・花の家短期入所生活介護事業所（短期入所介護予防事業）
- ・ケアハウス花の家
- ・デイサービスセンター緑水苑（第一号通所事業）
- ・花の家訪問介護事業所（第一号訪問事業）
- ・花の家居宅介護支援事業所
- ・雄和地域包括支援センター緑水苑
- ・認知症地域支援・ケア向上
- ・食の自立支援事業（配食サービス）
- ・郊外型はつらつくらぶ事業
- ・高齢者生活支援体制整備事業（生活支援コーディネーター）

【法人総括】

役員改選により理事長が交代し、前理事長から引き継いだ二つの大きな事業を完了することが出来た。一つ目は延期となっていた特殊浴槽更新工事である。競輪補助事業補助金を活用したことにより 1/2 以上充当出来た。浴槽更新後は利用者に快適な入浴サービスを提供している。二つ目は居宅及び訪問介護事務所建替え工事である。懸念であった資金については銀行からの低金利融資により資金調達し、建築資材等の高騰に対しても、入札によりコスト圧縮した。双方の事業ともに理事会、評議員会のご協力のおかげで、基本財産取得による定款変更等の手続き等も遅延なく行うことが出来た。

新型コロナウイルスも 2 類から 5 類となり、クラスターから集団感染と呼び名も変わった。各事業所ともに新たな集団感染の発生はなく、感染予防対策を少しずつ緩和しながら事業に取り組んでいる。

経営面では特養の稼働率及び収益が良かった半面、在宅部門の落ち込みが続いた。解消するためにコスト削減はもちろん、デイサービスの営業日変更や人事異動による職員配置数の見直しなど役職員が一緒に取り組んだ。

人材確保については益々厳しい状況が続いており、手数料が発生するが人材紹介会社を利用しなければ確保出来ない状況である。また人材定着のため経営的には厳しい中でも賃金改善含む職員の処遇改善にも取り組んだ。

【重点事項】

(1) 経営基盤の安定

在宅部門が伸び悩み、特にデイサービスは営業日変更と職員配置数の見直しを実施。特養稼働率が好調により在宅部門のマイナスをカバーした。

(2) 適正な法人運営

役員改選は遅延することなく完了。居宅事務所建替えに伴い、入札や基本財産変更、定款変更等、行政へ確認しながら手続きを行った。

(3) 感染症及び災害対策と安定したサービス提供

事業継続計画 (BCP) の策定経過措置の最終年度に伴い、感染症及び自然災害に対応出来るように各事業所で BCP を作成した。

(4) 人材確保・定着及び育成

介護人材の確保が難しく、ハローワークはもちろん、人材紹介会社も利用しているが充足出来なかった。職員定着のため介護職員処遇改善加算の他に、介護職員等特定処遇改善加算、ベースアップ等支援加算を取得。処遇改善支援補助金も併せた原資により加算該当事業所職員の賃金改善、該当しない事業所職員にも法人独自の賃金改善を実施した。

(5) 中長期計画への取り組み

JKA 競輪補助事業補助金を活用し特殊浴槽更新や、花の家居宅、訪問介護事業所建替え工事も無事完了。また昨年度に引き続き、県の補助金を活用し、施設内照明の LED 化に取り組むことが出来た。

法人運営（理事会・評議員会等）

1 理事会（計7回）

第1回 令和5年4月27日

議案・公益財団法人 JKA2023 年度機械振興補助事業に関する補助金交付決定の受託について

第2回 令和5年6月1日

議案・令和4年度事業報告の承認の件
・令和4年度決算報告の承認の件
・令和5年度第一次資金収支補正予算（案）の件
・定款施行細則の一部変更について
・役員の任期満了に伴う次期選任候補者の推薦に関する件
・令和5年度定時評議員会の開催に関する件

第3回 令和5年6月27日

議案・理事長の選定の件
・業務執行理事の選定の件

第4回 令和5年9月5日

議案・花の家居宅介護支援事業所事務所改築工事に伴う資金借入計画の件
・基本財産の処分の件
・令和5年度臨時評議員会の開催に関する件

第5回 令和5年10月23日（決議の省略）

議案・デイサービスセンター緑水苑運営規程の一部改正の件
・花の家訪問介護事業所運営規程の一部改正の件
・花の家居宅介護支援事業所運営規程の一部改正の件

第6回 令和5年11月22日

議案・定款の一部変更の件
・令和5年度第二次資金収支補正予算（案）の件
・令和5年度臨時評議員会の開催に関する件

第7回 令和6年3月14日

議案・令和5年度第三次資金収支補正予算（案）の件
・令和6年度事業計画（案）の件
・令和6年度資金収支予算（案）の件
・運営規程の一部改正（案）の件
・就業規則の一部改正（案）の件
・臨時職員及びパート職員の就業に関する規程の一部改正（案）の件
・給与規程の一部改正（案）の件
・令和5年度臨時評議員会の開催に関する件

2 評議員会 (計4回)

定時評議員会 令和5年6月16日

- 議案・令和4年度決算報告の承認の件
・令和5年度第一次資金収支補正予算(案)の件
・役員任期満了に伴う選任に関する件

臨時評議員会 令和5年9月15日

- 議案・基本財産の処分の件

臨時評議員会 令和5年11月30日

- 議案・定款の一部変更の件
・令和5年度第二次資金収支補正予算(案)の件

臨時評議員会 令和6年3月22日

- 議案・令和5年度第三次資金収支補正予算(案)の承認の件
・令和6年度事業計画(案)の承認の件
・令和6年度資金収支予算(案)の承認の件

3 監査会 (計2回)

日時 令和5年5月23日

- 事項・令和4年度事業報告について
・令和4年度計算関係書類及び財産目録について

日時 令和5年10月24日

- 事項・令和5年度上半期事業報告について
・平成5年度上半期計算関係書類について

4 役員研修

(1) 令和5年度秋田県経営協セミナー(前期)

期日 令和5年9月11日

場所 秋田県社会福祉会館

参加者 佐々木理事(施設長)

(2) 令和5年度社会福祉法人理事長セミナー

期日 令和5年11月28日

場所 秋田パークホテル

参加者 丸山理事長

(3) 秋田市関係各課・室との懇談会

期日 令和6年2月5日

場所 アキタパークホテル

参加者 丸山理事長

(4) 令和6年度秋田県経営協セミナー（後期）

期 日 令和6年2月9日

場 所 秋田県社会福祉会館

参加者 佐々木理事（施設長）

5 運営会議（毎月1回開催）

6 法人の委員会

(1) サービス向上委員会（計2回）

- ・令和5年5月9日

令和4年度後期の苦情に関する状況報告と意見交換

- ・令和5年11月12日

令和5年度前期の苦情に関する状況報告と意見交換

(2) 衛生委員会（計12回）

産業医を交えて安全管理や法人職員の健康管理等について委員会を毎月開催。
年1回の職場研修会も開催。

(3) 広報委員会

広報発行*雄和地域全戸配布、関係機関や福祉施設等に送付

- ・令和5年8月4日 「花の家だより」36号発行 2,100部
- ・令和5年9月2日 「花の家だより」臨時号発行2,100部
(競輪補助事業による特殊浴槽更新)
- ・令和6年2月2日 「花の家だより」37号発行 2,100部

7 職 員 (R6年3月31日)

職 種	特養	短期 入所	ケア ハウス	通所 介護	訪問 介護	居宅介 護支援	包 括 支 援 セ ンター	合計
管 理 者	1		(1)	1	1	1	1	5 (1)
事 務 員	1		(1)	0	0	0	(1)	1 (2)
相 談 員	1		1	1 (1)	0	0	0	3 (1)
介 護 職 員	26		1	5	2 (1)	0	0	34 (1)
看 護 職 員	5		0	2	0	0	0	7
機 能 訓 練 指 導 員	(5)		0	(2)	0	0	0	(7)
管 理 栄 養 士	1		(1)	0	0	0	0	1 (1)
主 任 介 護 支 援 専 門 員	1		0	0	0	4 (1)	1	6 (1)
介 護 支 援 専 門 員	0		0	0	0	0	0	0
保 健 師	0		0	0	0	0	(1)	(1)
社 会 福 祉 士	0		0	0	0	0	1	1
認 知 症 地 域 支 援 推 進 員	0		0	0	0	0	1	1
技 能 員 等	5		1	1	0	0	3	10
宿 直 員	3		0	0	0	0	0	3
登 録 ヘルパー	0		0	0	2	0	0	2
嘱 託 医	1		0	0	0	0	0	1
合 計	47		3	10	5	5	7	77
※参考 R5年3月	45		3	13	5	5	7	78

・ () 兼務職員

・ 令和6年3月末

介護職の介護福祉士取得率 (特養 100%、通所 80%、ヘルパー60%)

法人職員の介護支援専門員資格保持者

(特養5名、デイ2名、ヘルパー1名、居宅5名、包括3名、)

特別養護老人ホーム花の家（短期入所生活介護事業所含む）

【総括】

稼働率 97.8%と目標数値の 98%に僅かに届かなかった。入所 14 名、退所 15 名と昨年度よりも入退所数は少なかった。空床期間短縮を念頭に新規入所を受入れしつつ、併せて短期入所の利用受入れで空所日数を減らすことが出来た。入院者数は昨年度より減少し、延べ 22 名だった。入院の理由として誤嚥性肺炎、心疾患や元々の基礎疾患の悪化によるものである。退所者 15 名のうち、施設での看取りの方が 13 名、医療機関で亡くなった方が 2 名と看取りの方が多い。

面会は感染状況により昨年度オンラインが中心だったが、今年度は予約制として、インフルエンザまたは新型コロナウイルスの流行状況を見ながら直接面会を実施したことにより家族にも喜ばれた。

短期入所事業は 1 日平均 7.0 人（稼働率 100%）で目標数値 1 日平均 6.5 人を達成することが出来た。長期利用者の受け入れと特養の退所や入院による空床を利用し、稼働率を維持することが出来た。今後もより稼働率の安定に努めていきたい。

【重点事項】

（1）ご利用者に寄り添ったサービスの提供と科学的介護情報システムの活用

ご利用者やご家族のご意向を確認し、サービス担当者会議を定期的に年 2 回開催した。その他にも介護保険の更新や退院時、状態悪化時にも随時開催した。アセスメント及びモニタリングを行い、ケアプラン作成や各部門との連携、協同によりご利用者に寄り添った支援へ繋げる事が出来た。新規入所の際にはご利用者やご家族に丁寧な説明を行い、不安の無いように新規入所に繋げることが出来た。

終末期における支援として、ご利用者及びご家族の要望に沿えるように出来る限り対応した。今までの生活を変えることなく、他のご利用者がいる中で見守りを行い、穏やかな最期を迎えられるように支援することが出来た。ご家族への支援として面会時間外でもいつでも面会に応じる事や宿泊準備を整えていることをお伝えし、安心して頂けるように努めた。最期に立ち会われたご家族からは暖かい言葉を頂戴した。ご利用者だけでなくご家族に対しても身体的、精神的負担の軽減に努める事が出来た。

日々の業務の中でご利用者の体調が普段と違いはないか観察に努めた。状態にあった判断を行い他職種と連携した対応が出来た。

科学的介護情報システム（L I F E）については、毎月情報を提出すること加算を取得することが出来た。またフィードバックをサービス担当者会議や月例報告会で活用し、よりよい支援につなげることが出来た。

介護記録の電子化に向けて委員会を設置。委員が中心となりマニュアル等を作成し、年度末に電子化へ移行することが出来た。日々見直しし、今後もより業務の改善に努めていく。

（2）事故防止と感染症対策に努める

委員会でヒヤリハット・事故報告を基に事故を検証、再発防止に努めた。特養で骨折事故が 5 件発生。寝たきりの方の骨折もあり、職員には一つひとつの動作を確認し支援にあたるように注意喚起をした。その後は行政機関や加入している保険会社に速やかに報告。また、医療機関とも連絡調整を行った。

新型コロナウイルスのクラスターや他感染症の集団発生はなかった。今後もマニユ

アルの見直し、内部研修や申し送り等で職員に意識付けや対応力の強化に努めていきたい。

(3) 専門職としての責務と人材育成

研修はオンラインで実施しているものが多くなり、タブレットやWi-Fi等環境を整え、積極的に研修を促している。その他外部講師を招いて身体拘束・虐待についての研修や施設内で毎月の職員会議での研修を開催した。職員としての質の向上に取り組むことが出来た。

日常の業務記録、ヒヤリハット、事故報告書、会議録、復命報告書において、書く力を身に付けるよう機会を設けた。記録提出期日、一覧表を設ける事で職員への意識付けをしたが、期日まで提出出来ない職員もいたので指導した。

医療的ケア（痰の吸引と経管栄養）では、安全に実施する為に委員会での確認を行った。実地研修については、研修がスムーズに行うことができ、研修未修了者すべてが修了することが出来た。来年度も新たな職員の実地研修を行っていききたい。

今後も看取り介護を希望される方が増えていく中で、ご利用者の状態観察や引き継ぎが重要な部分を占めていく為、職員間での指導や情報交換を密に行っていききたい。

職員自ら専門性の向上を目指し、ご利用者、ご家族からも信頼される職員となるように努めていきたい。

(4) 非常事態発生時の危機管理に努める

防災訓練は年間計画通りに実施。夜間想定避難訓練は消防署員の立会いはなかったが、緊張感を持って取り組むことが出来た。土砂災害想定避難訓練では体調不良者を除く全利用者を1次避難場所である交流スペースへの避難誘導を行った。実際に誘導してみて待機スペースの状況などを確認することができ、次のステップに繋がる訓練となった。また、近隣自治会からも参加してもらうことができ、協力体制を築くことが出来た。次年度は作成したBCPに基づき、より実践的な訓練を行っていききたい。

(5) 稼働率の安定を図る

今年度は退所者数15名、入院者数延べ22名と前年度より少ない人数となった。新規入所までの期間短縮を意識しながら受入れを進めた。平均空所日数は昨年よりも長くなったが、空床を短期入所で利用することで空床期間を減らすことが出来た。年間稼働率97.8%とほぼ目標数値(98%)となった。

ショートステイは1日平均7.0人(稼働率100%)、新規にご利用者19名との契約締結が出来た。長期利用と特養の空床利用により利用日数が増え目標数値6.5人を達成することが出来た。

今後ご利用者一人ひとりの観察の充実を図り職員間の連携を密にしたサービス支援に努め、稼働率の安定を図りたい。

【各部門総括】

(1) 相談員・介護支援専門員部門

令和5年度は15名の利用者が退所。その内施設で看取った方は13名であった。施設での看取りを希望される方には看取りの指針の説明、看取りプランを作成し、本人や家族の意向に沿えるように支援を行った。亡くなられた後には弔問に赴き施設生活の様子を伝える等、死後のケアとして家族支援に努めた。また偲びのカンファレンスを開催。振り返りを行う事でより良い支援への糧としている。

新規入所は家族や他事業所と連絡調整を密にしてスムーズな入所に繋がるように努めた。入所前に事前訪問、アセスメント実施し、本人、家族の意向を確認している。施設入所についての説明は安心してもらえるように懇切丁寧に行っている。

入所されている利用者のケアプランについては本人へのアセスメント、各専門職の意見を聞いて作成。サービス担当者会議は6ヶ月に1回と退院時や更新・区分変更等の必要時に開催。モニタリングは3ヶ月に1回実施した。サービス担当者会議は家族の参加が難しい場合は意向を伺い、職員のみで開催した。

ボランティア等の受け入れは感染対策を行い、希望に応じて受け入れをした。交流スペースに地域のサークルの手芸を展示し、利用者や来客者に興味を持ってもらうことができた。

面会は予約制で、時間、場所に制限を設け、感染症に注意を払って実施した。

ショートステイの受け入れは居宅の介護支援専門員と連絡調整している。

特養		ショートステイ	
入所割合平均：稼働率 (%)	97.8%	年間平均 (人)	7.0人
担当者会議/プラン策定	47回 /140件	担当者会議/プラン策定数	28件
入所者 (人)	14名	新規契約者数	19人
退所者 (人)	15名		
平均要介護度	4.1		

(2) 介護部門

施設サービス計画書に沿って支援を行いながら、状況に変化があった場合には計画書を変更し対応した。援助内容の変更が周知されていないことがあったので申し送りにより統一した支援を行うよう努めた。介護技術や方法、認知症の理解についても相互に確認し、ご利用者のペースに合わせた対応を心掛けた。しかし落ち着かないご利用者の対応に気持ちに余裕がなくなり、言葉遣いが荒くなったり、声掛けが不足してしまうことがあった。

支援記録については月1回の記録は概ね出来ていたが、期日までの提出が出来ていない職員もいた。今後は記録の電子化により効率的に記録、提出が出来るよう改善していきたい。

行事に関してはフルート演奏会や演芸の慰問、敬老式では節目のご利用者家族を招待し行うことが出来た。また、施設内でご利用者が楽しめるよう居室内や廊下等の装飾や行事をブロック担当制にし、全ブロック共通で一緒に楽しむことが出来るよう工夫をして行うことが出来た。

今年度も骨折事故が発生。その他にも原因不明の皮下出血も多かった。その都度検

証等を実施。研修会や介助方法の見直しも都度行い、再発防止に努めた。事故・ヒヤリハット報告書の回覧を早くし、周知するよう努めている。

喀痰吸引、胃瘻による経管栄養等の医療行為を安全に実施する為に委員会等で確認を行った。実地研修受講者の研修は全て終了したので、来年度も新たな職員対象に実地研修を行っていききたい。

(3) 医療部門

令和5年度は入所者が14名、退所者が15名あった。花の家を終の棲家とし、看取りとなられた方は13名、入院先の病院で亡くなられた方は2名だった。日頃から入所者の状態把握に努め、必要時は嘱託医や他医療機関の受診を行い急変などに対応した。

年間を通しノロウイルスや食中毒を発症することなく過ごせたことは日々の手洗い、マスクの着用、定期的な換気の徹底など職員の意識のおかげである。インフルエンザと新型コロナウイルス感染症については、家庭内感染はあったものの、施設利用者の罹患は認めなかった。引き続き感染防止に努めたい。

ご利用者、ケアハウス入居者の健康診断を実施し、嘱託医の指示のもと要精査者の再検を行い内服開始や経過観察をしている。職員の健康診断では産業医からの助言も受け、要精査者は受診を勧め、その結果の把握にも努めた。

(4) 事務部門

法令に従い理事会及び評議員会を開催することが出来た。決算処理については会計基準に従い適切に処理を行い、現況報告・計算書類等についても財務諸開示システムを用いて遅延することなく公表し、法人運営の透明性を図った。

予算執行状況の把握・分析をより具体的に行えたことで各事業所の収入増及びコスト削減の意識が高まり、各事業所・各部門との連携をより密にし、業務の円滑化を図ることが出来た。

(5) 給食部門

超高齢者が増えている現状において誤嚥性肺炎のリスクも高くなる中、迅速な食事形態、食事量の変更と補助食品の利用で誤嚥や事故防止に努めた。個々の栄養マネジメントを行い、ご利用者の食べることへの意欲向上に努めるとともに、身体機能、生活機能の維持を図ることが出来た。

害虫駆除月1回毎、グリストラップ、排水溝清掃3ヶ月毎に実施し、衛生保持に努めた。厨房から食中毒やノロウイルス、コロナ感染等出ることなかった。

4月(回転窯撤去)、5月(配膳車シャッター修理)、9月(エアコン室外機の部品交換)、12月(食器洗浄機扉のダンパー修理)など都度器具什器の点検、整備に努めた。

11月22日(水)災害訓練食の日を設け実施し、ご利用者及び職員に意識付けが出来た。備蓄品を消費期限内に随時使用し、更新した。

毎日の食数確認で定数は提供出来たが、付け間違いや付け忘れがあり、異物混入と禁止食品の提供が1件ずつあった。利用開始や終了、変更時は電話連絡のみにせず必ず書面での連絡をすることで全員に周知することができた。

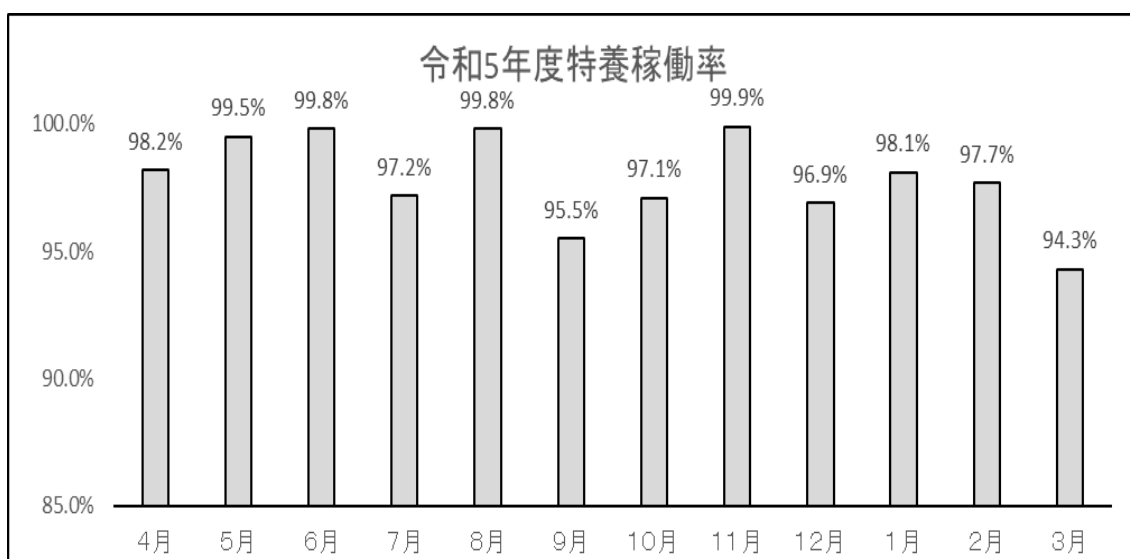
施設での看取りを希望される利用者が増える中において、危険なく可能な限りでの希望を聞き提供に努めた。

意思疎通の取れない方への満足度の図り方については家族にも協力願ひ、探求心を持って取り組んでいく。

【年間資料】

(1) 特養入所利用状況及び入退所状況(入所定員 58名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
実人数(人)	57.0	57.7	57.9	56.4	57.9	55.4	56.3	57.9	56.2	56.9	56.6	54.7	△	56.7
稼働率(%)	98.2%	99.5%	99.8%	97.2%	99.8%	95.5%	97.1%	99.9%	96.9%	98.1%	97.7%	94.3%	△	97.8%
延在床数(人)	1,710	1,789	1,737	1,749	1,796	1,662	1,746	1,739	1,743	1,765	1,644	1,696	20,776	1731.3
入院者数(人)	2	1	2	3	1	1	1	0	1	1	3	6	22	
退所者数(人)	0	0	0	2	1	3	2	0	3	0	1	3	15	
入所者数(人)	0	0	0	1	1	3	2	1	1	2	1	2	14	

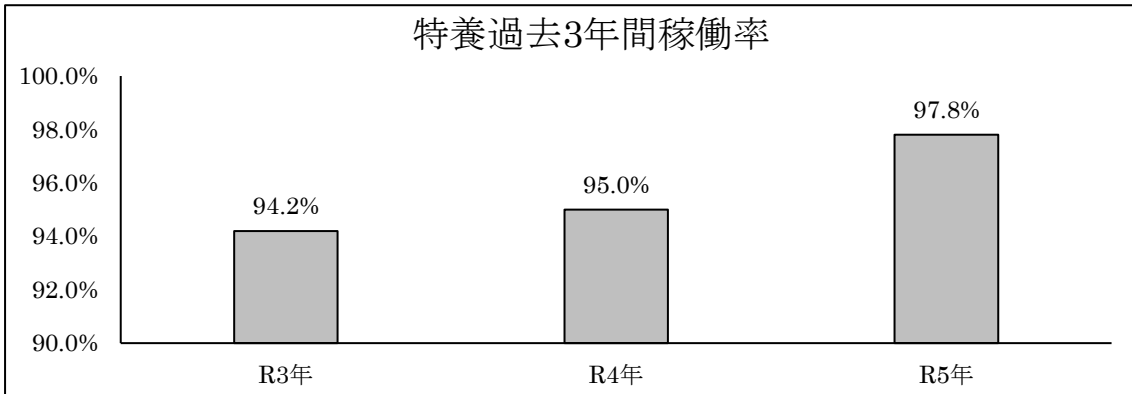


(2) 空床状況

	R3 年度	R4 年度	R5 年度
入院	722 日	682 日	234 日
外泊	0 日	0 日	0 日
退所による空床	293 日	266 日	218 日
合計	1,015 日	948 日	452 日
新規入所までの日数	14.7 日	12.7 日	15.2 日

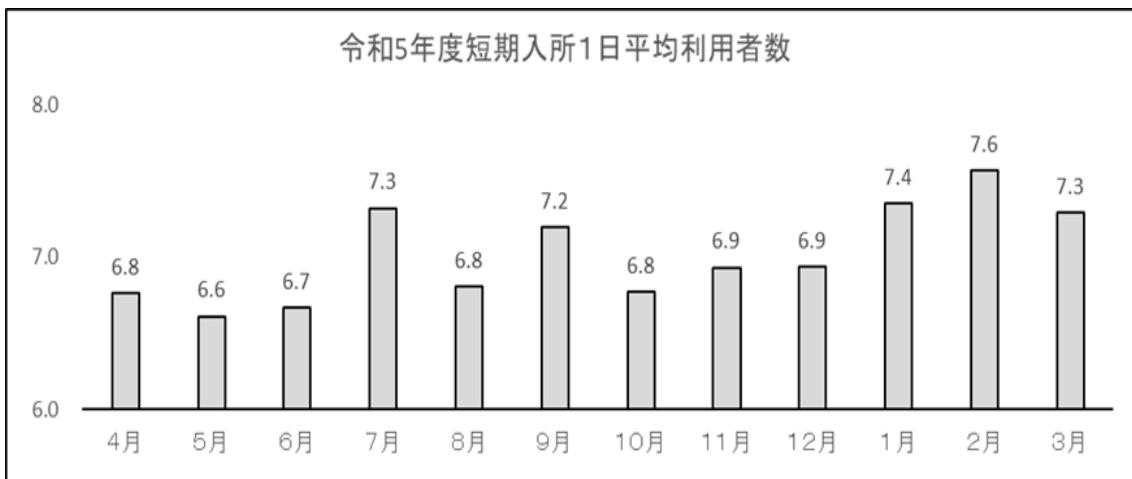
(3) 特養過去3年間稼働率 *R4年3月1日から定員変更(50名から58名へ)

	R3年度	R4年度	R5年度
人数	47.7	55.3	56.7
稼働率	94.2%	95.0%	97.8%
退所	20	19	15
入所	26	21	14



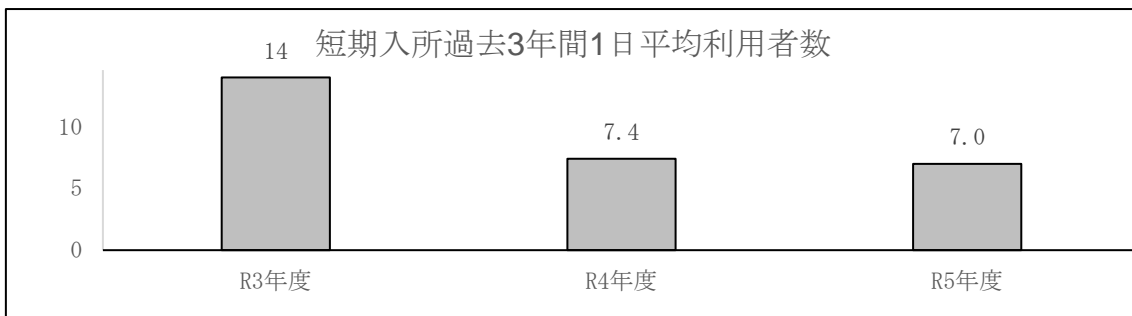
(4) 短期入所利用状況(定員7名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
延べ人数(人)	203	205	200	227	211	216	210	208	215	228	212	226	2,561	212.3
1日平均(人)	6.8	6.6	6.7	7.3	6.8	7.2	6.8	6.9	6.9	7.4	7.6	7.3	/	7.0
稼働率(%)	96.7%	94.5%	95.2%	104.6%	97.2%	102.9%	96.8%	99.0%	99.1%	105.1%	104.4%	104.1%	/	100.0%
新規契約(人)	1	1	1	0	2	2	2	1	0	3	2	4	19	



(5) 短期入所過去3年間1日平均利用者数及び稼働率
 *R4年3月1日から定員変更(15名から7名へ)

	R3年度	R4年度	R5年度
1日平均利用者数	14.0	7.4	7.0
稼働率	95.0%	104.6%	100.0%



(6) 特養入所契約者年齢別人員 (R6. 3. 31 現在)

年齢区分 在籍数		年齢区分					平均年齢
		65~69歳	70~79歳	80~89歳	90~99歳	100歳~	
男	10人	0	0	6	4	0	88.0歳
女	47人	0	2	16	27	2	90.6歳
合計	57人	0	2	22	31	2	90.1歳

最高年齢 女性 102歳3ヶ月 男性 95歳8ヶ月

最低年齢 女性 72歳11ヶ月 男性 80歳4ヶ月

(7) 要介護度別人員 (R6. 3. 31 現在)

要支援		要介護1		要介護2		要介護3		要介護4		要介護5		合計	平均要介護度
0	0	0	0	11	30	16					57		
男0	女0	男0	女0	男0	女11	男7	女23	男3	女13				
0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	19.3%	52.6%	28.1%							

(8) 地域別入所状況

入所前住所	雄和地区	河辺地区	旧秋田市	その他	合計
R6年3月31日現在数(人)	51	0	6	0	57

(9) 入退所状況

退所事由 (人)	転院	病院で死亡	施設で死亡	在籍期間	1年未満	1~5年未満	5年以上
	0	2	13		0	8	7
入所前の 状況(人)	在宅(ショート)	老健・グループホーム	病院	入所時 要介護度	要介護3	要介護4	要介護5
	10(10)	3	1		4	7	3

(10) 入所待機者状況 (R6. 3. 31 現在)

男性	42名	女性	82名	合計	124名
----	-----	----	-----	----	------

(11) 委員会実施状況

委員会名	開催数
研修委員会	3回
行事企画委員会	7回
給食委員会	6回
感染症対策委員会	6回
排泄・褥瘡防止委員会	4回
防災対策委員会	6回
サービス改善委員会	5回
事故防止検討委員会 (発生事故検証会)	5回 (10回)
入所調整委員会	2回
医療的ケア対策推進委員会	6回
身体拘束適正化委員会	5回
虐待防止検討委員会	5回
広報委員会	3回

(12) 内部研修会(職員会議時)

開催月	研修内容
4月	法令遵守と事業方針について
6月	防災・緊急時体制
7月	食中毒について
8月	身体的拘束等適正化・虐待防止について
10月	感染症について
11月	看取り介護について
12月	事故防止について
1月	身体的拘束等適正化・虐待防止について
2月	認知症について
3月(施設内 研修)	事故防止について、褥瘡について、自己評価表について

(13) 会議・行事・ボランティア等の状況

月	職員 会議	月例 報告	会議（介護職）	行事・ボランティア等	行事食
4 月	25日	20日	各ブロック会議 チーフ会議	夜勤職員検診（26日） 理事会（27日）	開園記念祝い膳（1日）
5 月	24日	18日		協議体花植えボランティア（9日） 聖霊高校 清掃等ボランティア（26日）	母の日祝い膳（14日）
6 月	21日	20日		理事会（1日、16日） サービス向上委員会（9日） 評議員会（16日） 夜間想定避難訓練（28日）	父の日祝い膳（18日）
7 月	26日	20日		七夕まつり（5日） 民協窓ふき、草刈りボランティア （12日、24日） 入所者一般検診（12日） 入所者結核検診（13日）	七夕祝い膳（7日）
8 月	23日	17日		チビッコボランティア（3日）	精進膳（13日）
9 月	27日	19日	各ブロック会議	理事会（5日） 花の家敬老式（13日） 臨時評議員会（15日） 職員健診（20日）	敬老祝い膳（13日）
10 月	25日	19日	チーフ会議	総合避難訓練（18日） 法人中間監査（24日）	収穫の祝い膳（27日）
11 月	22日	16日		集団指導（14日） 花の家秋祭り（15日） 理事会（22日） 評議員会（30日）	秋祭り膳（15日） 防災訓練食（22日）
12 月	20日	19日			クリスマスランチ（25日）
1 月	24日	18日		新春の集い（10日）	正月祝い膳（1日）
2 月	21日	20日	ブロック会議 チーフ会議	フルーツ演奏会（15日）	節分祝い膳（3日）
3 月	21日	19日		理事会（14日） 評議員会（22日）	ひな祭り祝い膳 （3日）

(14) 実習受入

日本赤十字秋田短期大学 介護学科実習生1名（令和5年5月15日～6月17日）

(15) 介護サービス情報の公表 令和5年11月1日

ケアハウス花の家

【総括】

令和5年度は入居5名、退居4名だった。退居の主な理由は昨年同様、高齢化に伴う認知機能及びADLの低下、急な体調不良による入院等、様々な要因でケアハウスでの生活が困難になったことが多くを占めている。近年の新規入居希望者の傾向として、高齢化や異常気象による体調不良等、独居での生活に大きな不安を抱えて生活している方が多い。中には体調不良等で入院し退院後の生活場所の確保が難しい方もおり、入居当初から介護保険サービスを利用しての生活開始となる方も多くなっている。本来ケアハウスとは、概ね自立した生活が可能な方の施設ではあるが近年の高齢独居家庭の急増や家庭事情等の変化もあってか家族の協力が難しい方からの入居申込みが多くなっており入居時の適切な説明や契約がより求められている。

各行事や活動については、手洗いマスク等の感染症対策の継続とワクチン接種の実施により感染症罹患者はおらず施設内行事や園芸活動、外出ドライブ等の生きがい活動を実施できた。

今後も入居者一人一人の1日を大切に、楽しく充実した生活へ繋がるような思いやりのある支援を大切にしたい。

【重点事項】

(1) 感染症対策及び充実した日常生活への支援について

令和5年度の新型コロナウイルス5類移行後も基本的な感染予防対策及びワクチン接種を実施し、入居者及び家族等にも理解を求め感染予防に努めた。入居者からの強い希望もあり外出ドライブや外食レクなどの活動を取り入れ喜んでもらった。その他、園芸活動としてケアハウス菜園を活用して枝豆、スイカに加えリクエストの多かったサツマイモ栽培を試みた。高齢化とADLの低下により畑作業ができる方は年を追うごとに減少傾向にあるが大地の上では年齢を感じさせない生き生きした姿と笑顔が印象的だった。収穫後は女性入居者を中心に調理し収穫の喜びを味わい入居者同士の親睦を深めることができた。

施設内での余暇活動については、毎日の健康体操や茶話会、しりとり、折り紙、ぬり絵、パズル等の活動を行い充実した日常生活に繋げることができた。

(2) 生活環境の整備について

施設内の清掃、整理整頓、温度湿度管理の実施に加え、加湿器付き空気清浄機を活用し入居者が快適で安心できる環境作りに努めた。また、個々の居室内の冷蔵庫の管理等の声掛けや冷暖房の適切な使用、定期的な換気等の声掛け支援を継続的に実施した。廊下の壁を活用し季節の装飾や外出レクや余暇活動時の写真を掲示し思い出や季節感を味わってもらえるような工夫をした。

(3) 健康観察の充実について

入居者の平均年齢は88.6歳と高齢化しており半数以上が90歳以上であることから日常の健康管理が重要とされる。今年度も夜間や早朝等、職員不在時に体調不良になったケースもあり、救急外来受診等の対応をした。また多くの入居者(13名中12名)が訪問介護サービスや通所サービス、特殊寝台レンタル等の介護保険サービスを利用しており、介護支援専門員及び介護保険事業所との情報交換を行い入居者の体調

管理に繋げることができた。日々の健康管理サービスとして週3回のバイタル測定と月に1度の体重測定を実施し健康状態把握に努めた。また入居者の受診日等を把握し、緊急時や家族対応が難しい入居者については通院介助を実施し入居者、家族の安心と信頼構築に繋げることができた。万が一体調不良やADLの低下等によりケアハウス生活が困難になった場合には、本人ご家族、介護支援専門員等と相談し本人が安心して過ごすことができる介護保険施設等への移行、調整等を進めてきた。

今年度も雄和もてぎクリニックの協力を得て新型コロナウイルスとインフルエンザウイルスのワクチン接種を実施した。入居者にも手洗いうがい、マスク着用等、感染予防対策への理解、協力をいただき健康的な生活に繋がった。

(4) 災害等に備えた危機管理体制の構築について

近年多発傾向にある自然災害や火災等に備え事業継続計画（BCP）を作成すると共に避難訓練等の実施により入居者の安全な生活に繋げる体制を充実させた。また職員を対象とした救命講習を実施し緊急対応に備える対応力を備えた。

1 年間行事活動報告

月	日	行事名等	内容・場所	参加者
4月	4日	買い物+代行	御所野スーパーセンターアマノ	5名
	10日	外出レク（花見）	新屋～ミルハス～牛島～椿台方面	5名
	11日	〃	〃	5名
	26日	買い物+代行	御所野スーパーセンターアマノ	7名
	27日	打ち合わせ会	ケアハウス食堂(次月予定確認等)	9名
5月	12日	園芸活動	花苗植え、枝豆播種	2名
	18日	買い物+代行	御所野スーパーセンターアマノ	5名
	25日	園芸活動	ケアハウス菜園（畝作り、定植）	5名
	29日	打ち合わせ会	ケアハウス食堂(次月予定確認等)	11名
6月	6日	買い物+代行	御所野スーパーセンターアマノ	7名
	22日	園芸活動	ミズ採取、ミズたたき調理	7名
	29日	買い物+代行	御所野スーパーセンターアマノ	6名
	〃	テイクアウトランチ	〃	6名
	〃	打ち合わせ会	ケアハウス食堂(次月予定確認等)	12名
7月	14日	外出レク（ドライブ）	赤田の大仏、あじさいロード	4名
	20日	買い物+代行	御所野スーパーセンターアマノ	6名
	28日	打ち合わせ会	ケアハウス食堂（次月予定確認等）	11名
8月	9日	買い物+代行	御所野スーパーセンターアマノ	7名
	15日	園芸活動	枝豆、スイカ収穫、調理、試食会	7名

	22日	テイクアウトランチ	ハローランチ	6名
	31日	打ち合わせ会	ケアハウス食堂 (次月予定確認等)	11名
9月	1日	買い物+代行	御所野スーパーセンターアマノ	6名
	22日	〃	〃	6名
	29日	打ち合わせ会	ケアハウス食堂 (次月予定確認等)	10名
10月	4日	園芸活動	サツマイモ試し掘り、試食	4名
	6日	買い物+代行	御所野スーパーセンターアマノ	6名
	20日	園芸活動	干し柿作り	8名
	28日	外出レク	市民サービスセンター (民謡)	4名
	31日	園芸活動	サツマイモ収穫	5名
	〃	打ち合わせ会	ケアハウス食堂 (次月予定確認等)	11名
11月	1日	買い物+代行	御所野スーパーセンターアマノ	10名
	8日	外出レク (ドライブ)	小泉潟~天王グリーンランド方面	5名
	20日	買い物+代行	御所野スーパーセンターアマノ	6名
	22日	干し柿試食会	ケアハウス食堂	11名
	29日	サツマイモ試食会	〃	11名
	〃	打ち合わせ会	ケアハウス食堂 (次月予定確認等)	11名
12月	6日	買い物+代行	御所野スーパーセンターアマノ	10名
	25日	〃	〃	5名
	27日	クリスマス忘年会	食堂 (折詰、寿し、大抽選会)	13名
	28日	打ち合わせ会	ケアハウス食堂 (次月予定確認等)	10名
1月	8日	縄ない体験	ヤマハゲけら作り	5名
	15日	買い物+代行	御所野スーパーセンターアマノ	6名
	31日	打ち合わせ会	ケアハウス食堂 (次月予定確認)	10名
2月	15日	買い物+代行	御所野スーパーセンターアマノ	3名
	21日	テイクアウトランチ	ハローランチ	8名
	28日	打ち合わせ会	ケアハウス食堂 (次月予定確認)	10名
3月	6日	買い物+代行	御所野スーパーセンターアマノ	5名
	13日	外食レク	南部屋敷 (御野場)	4名
	15日	〃	すし江戸 (山手台)	4名
	27日	買い物+代行	御所野スーパーセンターアマノ	6名
	29日	打ち合わせ会	ケアハウス食堂 (次月予定確認等)	10名

2 全体行事、その他

月	日	行事名	内容・場所
6月	28日	避難訓練 (夜間想定)	夜間の火災を想定した避難訓練に参加
7月	5日	七夕行事 (全体行事)	魚釣りゲーム及び七夕喫茶を楽しむ
9月	13日	敬老式 (全体行事)	節目のお祝いをする (ケアハウスは2名)
	18日	総合避難訓練 (土砂災害想定)	土砂災害を想定した避難訓練に参加
11月	15日	秋祭り (全体行事)	民謡ボランティア及び喫茶を楽しむ
1月	10日	新春の集い (全体行事)	各ブロックヘナマハゲと神主、巫女に扮した職員が訪問し雰囲気を楽しむ
2月	15日	ボランティア慰問	フルート演奏 (交流スペース)

- ・その他の活動～健康体操 (音楽に合わせて10:00～10:30)
茶話会 (しりとり、バランスゲーム等 10:30～11:30)
余暇活動 (トランプ、パズル、オセロ等 15:30～16:30)

3 入退居及び入居者状況

(1) 入退居状況 (入居5名、退居4名)

入居	4/1 (男性1名)	7/1 (女性1名)	9/1 (男性1名)	9/28 (女性1名)	11/28 (女性1名)
退居	6/23 (女性1名)	8/28 (女性1名)	9/5 (男性1名)	11/16 (女性1名)	

(2) 年齢別・性別の状況 (R6.3.31現在)

区分	男性	女性	計	割合
60～69歳	0	0	0	0%
70～79歳	1	0	1	7.8%
80～89歳	0	5	5	38.4%
90歳以上	2	5	7	53.8%
計	3	10	13	100.0%
平均年齢	87.0歳	89.0歳	88.6歳	

4 過去3年間状況

(1) 在籍数 (各年度末日現在)

	男性	女性	計
R3年度	4	9	13
R4年度	2	10	12
R5年度	3	10	13

(2) 介護認定状況（各年度末日現在）

	自立	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
R3年度	1	0	4	4	4	1	0	0
R4年度	0	0	4	6	2	0	0	0
R5年度	1	1	3	6	2	0	0	0

(3) 年齢別・性別状況（各年度末日現在）

		60～69歳	70～79歳	80～89歳	90歳以上	合計	平均年齢
R3年度	女	0	2	3	4	9	87.9歳
	男	0	0	3	1	4	
R4年度	女	0	1	3	6	10	86.3歳
	男	0	1	0	1	2	
R5年度	女	0	0	5	5	10	88.6歳
	男	0	1	0	2	3	

(4) 事故・ヒヤリハット件数

	R3年度	R4年度	R5年度
事故・ヒヤリハット	2	2	1
苦情	0	0	0

5 その他

(1) 軽費老人ホーム事務費補助金当初交付申請（4月）

〃 概算払請求（6月、7月、11月、1月）

〃 変更交付申請、清算又は請求（3月）

〃 実績報告書提出（3月末）

(2) 軽費老人ホーム利用状況報告書（毎月）

(3) サービス担当者会議（6月、12月）

(4) 見学者対応（6件）

デイサービスセンター緑水苑（第一号通所介護）

【総括】

令和5年度は新規利用者受け入れが23件となり、多くの方と契約を結ぶことが出来た。デイサービスを体験したい方も多く、12名の方が体験利用された。その内、10名の方と契約を結ぶことが出来た。しかし年間の平均利用者数が20.50名と目標値の24名を上回ることが出来なかった。平均利用者数の低迷の経緯として、複数回ご利用頂いていた方が脳疾患、心疾患、骨折、入所、死亡等により登録利用者数の減少に繋がった。新規契約者は週1、2回からの利用が多いため、利用中止者の穴を埋めることが出来なかった。

月平均の利用者数が減少傾向となり、経営上の判断から11月から土曜日の営業を止めざるを得なかった。少数名ではあるが、土曜日に営業しているデイサービスへ移った方もいたが、その他の方は平日の曜日で調整を図り緑水苑の利用を継続してくれた。併せて配置職員数も見直しを行なった。

ご利用者確保に向け各事業所への渉外活動、デイサービスの空き情報を提供した。しかしショートステイ利用や老人保健施設入所など更なる施設傾向が高まっており、在宅での介護負担が大きいことを窺わせる。利用者人数を維持し継続していくことは容易ではなく、ご利用者確保の難しさを毎年痛感している。

今年度は歩行訓練ロボット、歩行分析AIアプリ、機能訓練プログラムソフトを企業からの無料貸出により試してみた。その中で機能訓練プログラムソフトにはプログラムが約40種類収録し、生活課題に合わせた機能訓練が実現可能であった。利用者全員が楽しんで参加することが出来たので来年度はデイサービスの売りの一つとして導入したい。

コロナウイルス感染症が5類に引き下がったことから、演芸、ハーモニカ、話し相手等ボランティアの受け入れを開始した。コロナ期間中はそういった受け入れが難しい状況であったため、演芸等のボランティアの際には利用者の皆さんは大変喜んで下さった。今後も苑内での感染防止対策を徹底しながら、活動できる行事やボランティアの受け入れを行い楽しんで頂くように努めていきたい。

【重点事項】

（1）運営基盤の強化

渉外活動を通して他法人の居宅介護支援事業所及び地域包括支援センターにデイサービスの空き情報や体験利用、新規利用者の紹介等の依頼を行った。また、地域自治会や郊外型はつらつクラブの介護予防教室にも参加した。デイサービスの概要を説明し興味を持って頂くよう活動してきた。

在宅サービス担当者会議においては、複数回利用の提案や行事の際にお誘いするなど利用を進めた。病院受診等で定期曜日の利用が出来ない場合には、定期曜日以外のサービス利用に繋げるなどの対応も行った。活動の成果もあってか、上半期の新規契約締結が13件、そして代替日や行事の時には多くの方が利用してくれた。その後、下半期は新規契約締結が10件と今年度は昨年度を大きく上回る23件と締結が出来た。体験利用の受け入れが12件あり、その内10件が利用に繋がった。ただ今まで複数回ご利用頂いていた方が、疾病、入院、入所、ショートステイ利用等により利用中止をせざるを得ない方もおり登録者数が伸びなかった。その為、経営上の判断から11月に土曜日の営業を止める結果となった。

1日平均23人以上の目標値も達成は出来なかった。

(2) ご利用者一人ひとりのニーズに対応したサービス提供

ご家族、ご利用者の要望に応じて早めの受け入れや短時間での送迎、ご希望の時間に合わせた送迎を行った。

日々の身体状況を確認しながら職員間で情報共有し、安全に過ごしてもらえるように支援した。

(3) 在宅での日常生活機能向上に向けた個別機能訓練の実施

ご利用者個々に実施するアセスメントを基に、心身の状態に応じた個別機能訓練計画書を作成した。カラオケ機材にプログラムされている歌謡曲に合わせた体操を映像通して実施した。手指、上肢、下肢に効果的な訓練を取り入れた。また、今年度は歩行訓練ロボット、歩行分析AIアプリ、機能訓練プログラムソフトを試してみた。小グループでの機能訓練が位置付けられている中で、機能訓練プログラムソフトには約40種類のプログラムが収録しており、生活課題に合わせた機能訓練が実現可能であった。利用者全員が楽しんで参加することが出来た。

デイサービスの売りの一つとして、機能訓練に関連する物を導入したい。

(4) ご利用者に寄り添う姿勢と相手を尊重した接遇に努める。

ご利用者が在宅生活で自立した生活が継続できるように寄り添った支援に努めた。ご利用者に対しての接遇について職員の言動や態度が一部不適切な場面も見受けられたので事業所内で注意喚起した。デイサービスを楽しく、気持ちよく利用してもらうように今後も努めて行きたい。

(5) 非常災害対策の備え

昨年の反省を活かし内容の見直しを行い、年2回の避難訓練を実施した。

総合避難訓練には水沢、平沢、妙法地区の自治会長に訓練内容を見て頂き、訓練に対しての助言を頂いた。そして緑水苑の実情や課題等の情報の共有を図ることが出来た。避難誘導時には職員が各自マニュアルに沿って避難訓練を行った。年2回のみの訓練のため、対応が不十分な部分もあった。また新たな課題も見つかり今後の訓練で確認していきたい。

緊急時の対応では、急変時や交通事故時に早期対応に繋がるように「車輛トラブル時のマニュアル」を作成し各車両に配置。マニュアル見直しと職員同士で理解を深められる場をもう少し設ければ良かった。

(6) 感染症予防

新型コロナウイルス感染拡大防止のためご家族には文書を配布し、感染防止に向けたご理解とご協力を求めた。ご利用者にはご家庭での検温、マスクの着用を勧め体調管理に努めてもらった。送迎時には手指のアルコール消毒、車内の換気、送迎後には車内の消毒を行った。来苑時にも手指消毒の実施、検温、定期的な換気、加湿管理、物品消毒にも努めた。苑内でも常時マスクの着用をお願いした。

5月8日から新型コロナウイルス感染症が5類に引き下げられ少しずつ日常生活が戻ってきたが、コロナウイルスが無くなったわけではなくご本人やご家族で感染の報告を頂いた。インフルエンザが流行すると報道であったが、当苑においては新型コロナ

ナウイルスやインフルエンザ等による集団感染はなかった。

(7) アクティビティ計画（心身活性化のための活動）の評価

機能訓練以外にもテーブル上でパズルや塗り絵、間違い探し、線繋ぎ等の各種様々な脳トレ作業を用意している。また、グループ毎や全体で取り組む活動も行っており、日常生活の機能向上に繋がる多彩なプログラムを取り入れ利用者の皆様方に楽しんで頂いている。

苑内の行事では春、秋の外出、運動会、夏祭り、敬老会、クリスマス会、忘年会、節分、ひな祭り会等の行事を開催した。また、新波保育所の園児からのクリスマスプレゼントの寄贈もあった。

コロナウイルス感染症が5類に引き下がったことから、演芸、ハーモニカ、話し相手等ボランティアの受け入れを開始した。コロナ期間中はそういった受け入れが難しい状況であったため、演芸等のボランティアの際には利用者の皆さんは大変喜んで下さった。今後も苑内での感染防止対策を徹底しながら、活動できる行事やボランティアの受け入れを行い楽しんで頂くように努めていきたい。

1. 令和5年度利用状況（定員 30 名 月～土曜日営業・11月より月～金曜日へ変更）

	要介護度別利用者数（延人数）							利用者数 (人)	1日平均 (人)	営業日数	稼働率 (%)
	支援 1	支援 2	介護 1	介護 2	介護 3	介護 4	介護 5				
4月	13	30	168	181	81	6	0	479	19.16	25	63.86
5月	26	34	177	207	60	12	0	516	19.11	27	63.70
6月	19	34	187	196	70	25	0	531	20.42	26	68.07
7月	22	38	187	192	69	24	0	532	21.46	26	68.20
8月	18	33	183	208	49	24	0	515	19.07	27	63.58
9月	20	26	170	227	47	21	0	511	19.65	26	65.5
10月	22	27	167	223	50	24	2	515	19.80	26	66.02
11月	18	26	149	225	62	22	0	502	22.81	22	76.06
12月	15	25	151	201	70	12	0	474	22.57	21	75.20
1月	17	26	120	196	57	11	0	427	21.35	20	71.16
2月	24	29	131	191	73	13	0	461	21.95	21	73.17
3月	18	32	134	190	58	11	0	443	21.09	21	70.31
合計	232	360	1,924	2,437	746	205	2	5,906	20.50	288	68.35

2 新規契約件数

単位：人

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
6	0	3	2	1	1	1	0	2	5	1	1	23

(参考 R3年24件 R4年16件)

3 体験利用者

単位：人

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
1	1	2	1	2	1	1	0	2	2	1	1	12

(参考 R3年4件 R4年1件)

4 個別機能訓練加算Ⅰ(イ)(56単位)

単位：回

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
196	251	233	318	310	216	211	80	103	177	143	159	2,397

5 個別機能訓練加算Ⅰ(ロ)(85単位)

単位：回

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
240	205	245	154	152	249	255	378	331	207	265	234	2,915

6 運動器機能向上加算(225単位)

単位：回

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
7	8	7	7	7	7	6	6	5	6	7	6	79

7 入浴介助加算(Ⅰ)(40単位)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
430	454	470	465	462	462	454	455	430	384	403	382	5,261

8 送迎減算(-47単位)

単位：回

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
5	3	9	3	6	2	5	4	7	9	5	6	64

9 地区別実利用者数(令和5年3月末現在)

単位：人

	川添地区	戸米川地区	種平地区	大正寺地区	他地区(畑谷)	合計
男性	10	4	4	4	0	22
女性	20	11	6	9	0	46
合計	30	15	10	13	0	68

○平均年齢 87.9歳 最高齢者 96歳 ☆最若齢者 62歳

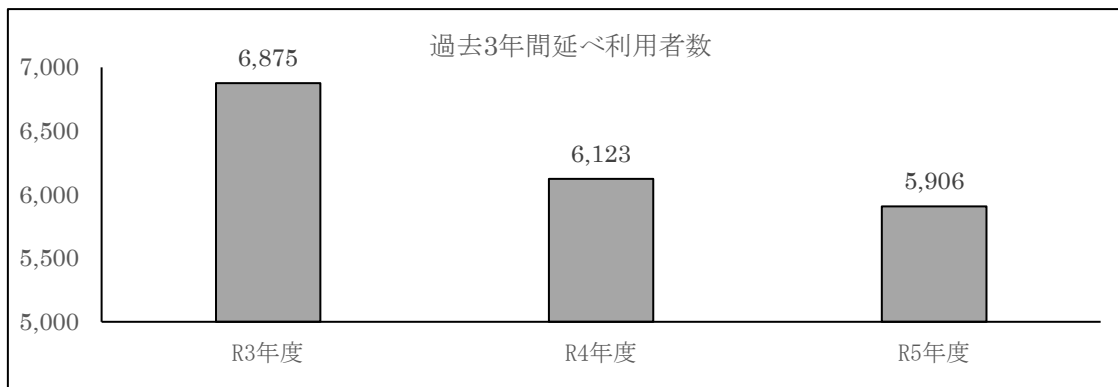
○週間利用回数(3月)

介護 1回利用(13名) 2回(23名) 3回以上(15名)

予防 1回利用(11名) 2回(1名)

10 過去3年間延べ利用者数

	R3年度	R4年度	R5年度
延べ利用者数(人)	6,875	6,123	5,906



11 主な行事・アクティビティ活動等の内容

月	行事・アクティビティ活動	今月の歌	実習/ボランティア
4月	グループ活動(塗り絵、卓上ゲーム、軽運動、脳トレ、回想法、ビンゴゲーム、ビデオ鑑賞、クイズ、外気浴等) 誕生会 4/7~4/20 春の外出ドライブ	みかんの咲く丘 二輪草	
5月	グループ活動(塗り絵、卓上ゲーム、軽運動、回想法、脳トレ、ビデオ鑑賞、クイズ、まちがい探し、紙飛行機等) 誕生会	みちづれ 花笠音頭	
6月	グループ活動(塗り絵、卓上ゲーム、軽運動、脳トレ、ビデオ鑑賞、クイズ、ビンゴゲーム等) 誕生会 6/13~6/14 さなぶり運動会 6/22 総合避難訓練	手のひらを太陽に 見上げてごらん夜の星を	まごころ友の会
7月	グループ活動(塗り絵、卓上ゲーム、軽運動、脳トレ、ビデオ鑑賞、クイズ、ビンゴゲーム等) 誕生会 7/27~7/28 夏祭り	憧れのハワイ航路 見上げてごらん夜の星を	まごころ友の会
8月	グループ活動(塗り絵、卓上ゲーム、軽運動、脳トレ、ビデオ鑑賞、クイズ、ビンゴゲーム等) 誕生会	オリンピック音頭 秋田節	まごころ友の会
9月	グループ活動(塗り絵、卓上ゲーム、軽運動、脳トレ、ビデオ鑑賞、クイズ、ビンゴゲーム、外気浴等) 誕生会 9/18~9/19 敬老会	からたち日記・星影のワ ルツ・月がとっても青い から・炭鉱節・いつでも 夢を・上を向いて歩こう	プルメリア(フラダ ンス)・桜雅会・梅 鶯会

10月	グループ活動（塗り絵、卓上ゲーム、軽運動、脳トレ、ビデオ鑑賞、クイズ等）誕生会 10/16～10/28 秋の外出ドライブ	箱根八里の半次郎・旅愁 東京ラプソディー・里の秋・リンゴの唄・リンゴ追分・紅葉	まごころ友の会
11月	グループ活動（塗り絵、卓上ゲーム、軽運動、脳トレ、ビデオ鑑賞、クイズ等）誕生会	王将・村のかじや・東京バスガール・旅人よ・東京の花売り娘・喜びも悲しみも幾年月・横浜たそがれ・寒い朝・小さい秋見つけた・	佐藤百合子梅鶯会
12月	グループ活動（塗り絵、卓上ゲーム、軽運動、脳トレ、ビデオ鑑賞、クイズ、講話等）誕生会 12/25 クリスマス会 12/28-12/29 忘年会	北酒場・孫・北風小僧の寒太郎・雪国・細雪・津軽海峡冬景色・母さんの唄・雪山賛歌・雪の降る街を・雪	佐藤百合子
1月	グループ活動（塗り絵、卓上ゲーム、軽運動、脳トレ、ビデオ鑑賞、クイズ、書初め等）誕生会	大黒舞・お座敷小唄・さざんかの宿・祝い船・富士山	保育園児交流（新波保育所）・佐藤百合子
2月	グループ活動（塗り絵、卓上ゲーム、軽運動、脳トレ、ビデオ鑑賞、クイズ等）誕生会 2/2 節分	春の小川・北国の春・さくらさくら・花・リンゴの唄・東京の花売り娘・荒城の月・春の小川・北国の春	佐藤百合子
3月	グループ活動（塗り絵、卓上ゲーム、軽運動、脳トレ、ビデオ鑑賞、クイズ等）誕生会 3/5 ひな祭り	高校3年生・せんせい・東京ラプソディー・花・きよしのズンドコ節	佐藤百合子

○個別機能訓練

個々の自立した日常生活に繋がるような内容をグループ単位に実施
（転倒予防体操、口腔ケア体操、手指運動、歩行訓練、生活動作訓練等）

12 会議等

- (1) 職員会議（毎月1回実施）
- (2) サービス担当者会議
- (3) 利用者事前訪問

13 各種委員会

- (1) 研修委員会（計2回開催）
年間計画作成等

①【施設内研修】

- 5月29日(水) 法令遵守「倫理」について
- 6月22日(木) 食中毒予防対策について
- 7月24日(月) 身体拘束・虐待防止に関する研修会

- 8月24日(木) 事例検討会～「接遇・クレーム対応」
- 10月23日(月) プライバシーの侵害・保護について
事例検討会
『利用者の「大丈夫だから」という言葉を信じたら』
- 11月23日(木) 感染症予防と蔓延防止対策について
- 12月27日(水) 認知症及び認知症ケアについて

②【施設外】(伝達研修)

- 6月22日(木) フレイル予防支援のためのスキルアップについて
- 7月24日(月) 介護記録の理解と実践について
- 8月24日(木) クレーム対応研修について
- 9月25日(月) 虐待、ハラスメント防止研修会
- 11月23日(木) 秋田市感染予防研修会について
雄和圏域介護従事者勉強会～女性相談(DV被害)について
- 1月30日(水) 雄和圏域介護従事者勉強会～成年後見制度について

(2) 機能訓練活動検討委員会 (計3回開催)

年間行事や活動計画の策定と実施

- 4月18日 ～ 4月30日 春の外出ドライブ
- 6月16日 ～ 6月17日 さなぶり運動会
- 8月4日 ～ 8月5日 夏祭り
- 9月19日 ～ 9月20日 敬老会
- 10月10日 ～ 10月22日 秋の外出ドライブ
- 12月23日 ～ 12月24日 クリスマス会
- 12月28日 ～ 12月29日 忘年会
- 2月4日 ～ 2月4日 節分
- 3月1日 ～ 3月3日 ひな祭り会

(3) 保健衛生委員会 (計5回開催)

利用者、職員の健康管理と予防対策、食中毒及び感染症予防対策
(インフルエンザ、ノロウイルス、新型コロナウイルス、消毒、換気等)

【施設内研修】

- 6月22日(木) 食中毒予防勉強会
- 11月23日(木) 感染症予防と蔓延防止対策について

(4) 防災対策委員会 (計5回開催)

避難訓練1回実施(利用者参加)、避難誘導確認、危険個所等確認、
暖房機器確認

【訓練】

- 7月18日(月) 総合避難訓練及び地域自治会長との災害時の協力体制会議
- 11月28日(水) 地震想定避難訓練

- (5) サービス改善委員会 (計3回開催)
 - 接遇・クレーム事例について (事例検討)
 - プライバシーの侵害・保護についての事例 (事例検討)
 - 【施設内研修】
 - 8月24日(木)「接遇・クレーム対応」
 - 10月23日(月)『利用者の「大丈夫だから」という言葉を信じたら』
- (6) 給食委員会 (計2回開催)
 - 利用者の摂取状況や嗜好調査等の確認や見直し
- (7) 広報委員会 (計3回開催)
 - 法人広報誌を編集し発行する。

14 介護サービス情報の公表 令和5年10月18日

15 ボランティア受け入れ状況 (年間受け入れ回数 1組)

名 称 (敬称略)	主な内容
新波保育所	園児よりクリスマスカード寄贈

花の家訪問介護事業所（第一号訪問介護）

【総括】

訪問介護事業は「長年暮らし続けた地域で老後を」という願いを受けて、各家庭を訪問して身体介護や生活援助を行い在宅での暮らしを支援している。

令和5年度の特徴としては毎月の利用者人数の平均は36人。その内訳は要介護の方は28人、要支援の方が8人と昨年より2人ほど減少した。利用者の減少は訪問時間の減少になり昨年より平均が0.5時間下回った。4月から7月までは毎日利用された夫婦の方があったが、8月の猛暑で2人の入院などがあり、一気に稼働時間が減ってしまった。自宅で終焉したいという希望は誰しもが思っている、それを叶える難しさをこれまで幾度となく経験してきた。このように訪問介護の経営の安定は非常に難しいと思う。

新型コロナウイルス感染予防対策として、訪問前後の際にはマスク着用、うがい、手洗い、予防衣のこまめな交換に努め、自分が感染しない、ウィルスを持ち込まないことに徹し感染はなかったが、ヘルパーの同居家族が罹患のためのシフト変更では、全体の協力で乗り越えた。

訪問事業の基本としては、利用者それぞれの状況把握を行い、個別援助計画を基にそれを把握し援助に当たる。援助の種類は様々であり認知症の対応、入浴介助の安全対策、個々の好みの調理方法、掃除の手際良さなど技術力求められるため、研修の重要性が挙げられている。一方で研修も重要ではあるが、訪問後の報告は特に重要で、毎日の反省と評価や検討を話し合うことが、仲間の意識を高め、時には励まし、時には励まされ、失敗もさらけ出すことが自分の向上であり、他の失敗防止であり、これらすべてが全体の技術に繋っていく。

事業経営は依然厳しい現状ではあるが、ヘルパーを待っていてくれる方がいる限り、少しでも長く自宅でゆったりと暮らしていけるよう、援助をしていく。

1 介護度別利用者数（人） 平均年齢 83.65歳

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
要介護5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護4	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0.08
要介護3	5	5	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	1.33
要介護2	13	12	12	12	12	11	11	11	12	12	12	12	10.83
要介護1	14	14	13	13	13	14	14	17	16	16	16	16	14.66
要支援1・2	5	6	6	6	8	7	10	10	9	10	9	10	8.00
計	37	37	34	34	34	32	35	38	39	38	37	36	35.91

2 家族構成別利用者数 (人)

月別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
独居世帯	19	20	19	20	22	20	23	26	26	27	26	27	22.91
夫婦世帯	3	3	3	3	3	5	5	5	6	4	4	4	4.00
家族あり	15	14	12	11	9	7	7	7	7	7	7	7	9.16
計	37	37	34	34	34	32	35	38	39	38	37	38	35.91

3 介護度別 訪問時間 (単位：時間)

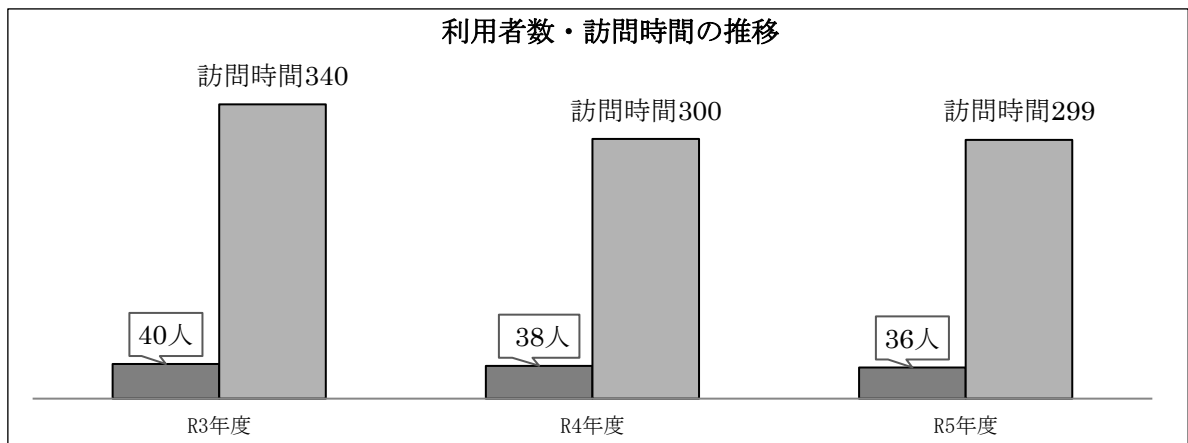
月別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
要介護5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護4	0	0	0	7:30	0	0	0	0	0	0	0	0	0:37
要介護3	112:26	111:56	89:00	79:00	0	0	0	0	0	0	0	0	35:21
要介護2	99:33	112:11	102:42	92:48	92:12	92:12	94:11	94:10	98:09	103:10	96:11	97:43	99:53
要介護1	16:19	124:46	112:36	115:46	106:45	101:06	111:46	130:42	142:57	128:50	129:50	162:20	115:18
小計	323:18	348:53	304:18	307:55	207:03	196:18	205:57	224:52	241:06	232:00	225:01	224:03	253:23
支援 1・2	31:45	42:30	41:45	32:45	42:00	38:45	57:51	52:38	51:21	53:22	54:22	53:22	46:02
計	355:03	391:23	346:03	340:40	249:03	235:03	263:48	277:30	292:27	285:22	279:23	277:25	299:25

4 活動区分別訪問時間（単位：時間）

月別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
身体 介護	33:26	53:56	39:00	41:30	30:00	21:00	21:30	19:30	19:30	19:30	16:30	23:10	28:12
身体 生活	172:52	161:51	140:21	133:21	65:22	54:21	57:51	54:22	58:21	69:21	66:22	68:51	91:56
生活 援助	122:00	133:06	124:57	133:04	111:41	120:57	131:06	149:00	162:45	143:09	142:09	132:02	133:49
総合 事業	31:45	42:30	41:45	32:45	42:00	38:45	57:51	52:38	51:21	53:22	54:22	53:22	46:02

5 利用者数推移（人）と訪問時間の推移（年間平均時間）

年度	R3年度	R4年度	R5年度
人数	40	38	36
時間数	340	300	299



6 職員会議、事業所内研修会

4月	・倫理及び法令遵守 ・苦情報告、解決に向けて ・排泄介助方法
5月	・訪問介護員の接遇 ・介護予防サービスの対応・援助の仕方 ・洗濯、掃除など援助方法
6月	・事故発生予防、再発予防について ・事故発生等、緊急時の対応 ・安全な入浴介助方法 ・糖尿病の調理
7月	・感染症・食中毒の予防及びまん延の防止 ・管理者、責任者、訪問介護員役割 ・飲み込み、むせない食べさせ方の研修
8月	・現任研修 認知症対応他 ・サービス提供責任者不在の緊急時対応 ・介護マニュアルの見直し ・車椅子など移動の介助方法
9月	・自己評価の検討会 ・ヘルパーが訪問出来なかった時の対応 ・従業員法令遵守
10月	・経営改善（利用者の意向、満足度検討） ・事業所の改善課題について
11月	・サービスの質についての自己評価 ・高齢者の食事づくり
12月	・従業員からの相談、意見、苦情対応 ・プライバシー保護
1月	・現任研修 ・教育計画
2月	・介護マニュアルの見直し ・認知症対応
3月	・介護計画書、アセスメント（担当確認）・事業者全体のサービス内容を検討

7 実習受入

日本赤十字秋田短期大学 介護学科実習生3名（令和5年7月21日～28日）

8 その他

介護サービス情報の公表

令和5年11月13日

花の家居宅介護支援事業所

【総括】

令和5年5月から新型コロナウイルスが5類感染症に移行したことにより、訪問せずとも電話等での状態確認や大きく変化がない場合にはサービス担当者会議を開催しない介護保険上の特例も廃止となった。当事業所でもサービス担当者会議等について感染症予防を理由に実施しない事もあったが、5月以降はご利用者、ご家族のご理解のもと問題なく今まで通りのサービスに戻していく事ができた。しかしコロナ感染は依然あり、感染によるサービスの変更や施設での集団感染に対してはその都度対応を行った。また11月には新事務所が完成。各事業所の協力も得ながら移転も順調に行う事ができ、整った環境で業務に従事する事が出来ている。

令和5年度の要介護者のケアプラン作成数では月平均160件を目標としていたが、142.7件と目標に大きく届くことが出来なかった。要支援の作成数は152件と昨年より41件増えた。

この一年で新規利用者件数では昨年より11件多い54件。新規件数が増えているにも関わらず、要介護者の総件数は1,712件と、昨年度より61件少なくなった。今年は状態が不安定な方が10日間前後の在宅サービスの利用で終了となり、直ぐに施設入所や入院に繋がるケースも多かった事も要因の一つである。要介護5での延べ人数利用者が昨年の2.5倍と多かった。施設への入所者は26件と昨年より8件多かった。また、亡くなられた方は昨年より1人多い17人だった。県外在住や同居していない子供が利用者の状態の変化から、ご本人の安全・安心した生活の場として施設入所を希望することも多くなってきている。利用者が定着しない、厳しい状況の一年となった。

利用者が在宅でも状態を安定維持できる事が、居宅の運営改善にも繋がると思う。介護サービスの最新情報を得ながらご利用者、ご家族の意向や要望を把握し、安心してサービスを利用出来るように情報提供を行い支援していきたい。また介護サービスの利用普及にも努めたい。今後も感染症についても細心の注意、対策を行って行きたい。

【重点事項】

(1) 居宅サービス計画の作成

ご利用者及びご家族の意向を尊重し、サービス計画の作成を行った。サービス担当者会議の開催は介護認定の新規及び更新時又はサービスの変更時等に都度行った。

(2) 介護予防支援及び介護予防ケアマネジメント業務の受託

包括支援センターから業務受託を受け、介護予防、生活支援サービス事業等の利用について介護予防サービス支援計画の作成に努めた。

(3) 関係機関との連携の強化

ご利用者及びご家族に対して保険、医療、福祉についての情報提供を行う。医療連携では利用者の体調相談で、本人の通院に同行、ケアマネがクリニックに訪問や書面でも相談を行った。入退院時の情報連携も行っている。コロナウイルスの感染状況で病院の対応も都度変更はあったが支障なく対応することは出来た。事業所等とも情報共有しサービス提供のため連絡調整を行った。

(4) 職場研修の充実

各介護支援専門員の目標に沿った研修に参加した。外部研修も新型コロナウイルス感染症発生以降は、多くの研修がオンライン形式での開催が通常となった。事業所内研修は毎月の職員会議で研修計画に沿って実施することが出来た。

1 年間計画作成数

	年間合計	前年比	備考
延べ利用者数 (要介護)	1,712 人	61 人減	月平均 142.7 件
延べ利用者数 (要支援)	152 人	41 人増	月平均 12.7 件

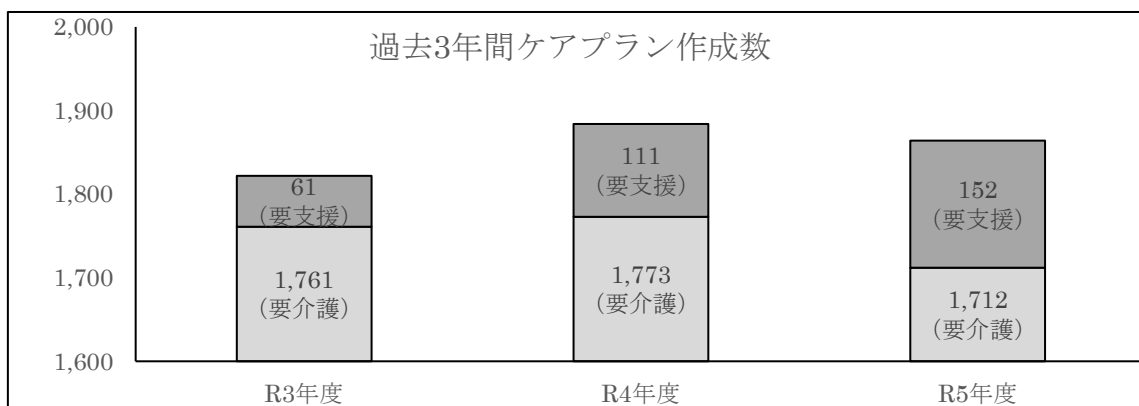
2 要介護度別利用状況

要介護度	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
利用人数 (延人数)	67	85	736	503	257	146	70	1,864
比率 (%)	3%	5%	39%	27%	14%	8%	4%	

3 年間計画作成数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R3 年度	155 (4)	152 (4)	149 (4)	146 (4)	150 (5)	156 (5)	151 (6)	154 (7)	156 (4)	153 (6)	155 (6)	145 (6)	1,822 (61)
R4 年度	151 (6)	155 (8)	149 (8)	154 (8)	163 (9)	172 (11)	165 (10)	164 (12)	157 (10)	157 (9)	151 (10)	146 (10)	1,884 (111)
R5 年度	160 (13)	163 (11)	160 (11)	159 (11)	150 (11)	162 (14)	151 (13)	145 (14)	148 (14)	152 (13)	160 (14)	154 (14)	1,864 (152)

*総作成数うち (介護予防数)



4 会議、研修等

- (1) 職員会議（毎月1回開催）
 - ・請求実績、業務実績、連絡確認事項、ケース検討、研修復命、事業内研修
- (2) 利用者に関する検討及び伝達（毎朝開催）
 - ・利用者に関する情報またはサービス提供に当たっての留意事項に係る伝達
- (3) サービス担当者会議（担当者が随時開催）
 - ・年間実績 242件
 - ・サービス事業所との連携、サービス内容の確認と検討
- (4) 委員会（随時開催）
 - ・他事業所と連携しながら活動
- (5) 研修
 - ・事業所内研修～施設外研修復命報告等 16回
 - ・事業所研修～主任介護支援専門員更新研修 他 13回

5 その他

介護サービス情報の公表

令和5年11月13日

雄和地域包括支援センター緑水苑

【総括】

令和5年度も事業計画に基づき生活支援コーディネーター、認知症地域支援推進員とも連携し地域住民への健康講話、出前講座やワークショップ、介護支援専門員や福祉職のスキルアップのための研修、勉強会、他職種連携、顔の見える関係を構築する会議等も計画通りに行っている。また一人暮らしの方（140件余）への個別訪問も従来通り行い、後日相談が来るなど包括支援センターの役割、周知にもつながっている。

雄和地域包括支援センターは今後も与えられた業務を丁寧に行い、職員自身の援助技術や幅広い知識を身に付け、総合的な判断力を養い、高齢者や地域の方が住み慣れた地域で自分らしい生活が継続できるように役割を果たしていく。

総合相談支援業務

相談件数は420件で昨年の349件から71件増えている。従来の相談件数に戻り対応している。相談内容は介護保険、認知症のこと（症状、医療）の相談は多い。また、認知症に限らず70代の方の生活困窮など相談が増えている。

介護予防ケアマネジメント業務

介護予防として、はつらつくらぶ、自主サロンに対し出前講座を行う。

介護予防プラン作成は（要支援1、2）今年度941件（委託を含む）で昨年より77件増えているが目標の80件には届いていない（平均78.4件）。令和4年度雄和地域包括支援センターから花の家居宅介護支援事業所に引き継ぎした方は29名で他事業所（8名）を含めると37名になる

権利擁護業務

権利擁護についての相談はなかったが、雄和圏域介護サービス事業所を対象に研修会（「虐待について」「成年後見制度のメリット・デメリット」）を今年度も継続開催した。また一般の方の方や福祉職を対象に南圏域包括社会福祉士が企画した「南圏域シルバーセーフティ研修会」を警察の方とも連携し各包括の3地域で開催した。

認知症地域支援推進員と連携しはつらつくらぶ、自主サロン、老人クラブ等に「認知症について・人生会議」の講話も行う。この企画は次年度も継続する。

包括的・継続的マネジメント業務

年度当初に年間計画書を圏域の居宅介護支援事業所に配布し、事業計画に盛り込めるようにしたり、他圏域の包括と協力し「しゃべこみカフェ」（ケアマネカフェ）を年4回開催しケアマネジャー同士の意見交換の場を設けた。

そのほか多職種連携の地域ケアネットワーク会議や南圏域包括主催の南部ケアマネ連絡会を行っている。また認知症地域支援推進員と共に、「秋田東警察署管内さがしてネットワーク会議」や声かけ通報訓練も行い、社会資源情報の収集や互いの関係作り、情報共有、顔の見える関係作りを行なっている

【食の自立支援事業】

独居、高齢者世帯に向けた「食の自立支援」事業（配食）は現在（R6/4）19名の方が利用されている。（19名中男性が11名で夫婦が3組、高齢世帯1組）

1回の配達は7食～13食と曜日により異なる。利用前に「お試し利用」を行うことで、配食の手続きを行ってから利用を中止する人が減っている。利用者の安否確認や調理負担（介護負担）の軽減に役立っている。

【郊外型はつらつくらぶ】

今年度も6ヶ所の会場で月8回開催した。利用者は52名（昨年より6名増）男性8名（3名増）女性44名（3名増）の方が運動や脳トレなど様々なプログラムに取り組んだ。

参加者の高齢化や認知症の発症などもあり、参加者が増えない悩みもあるが継続していることで新規の利用者の方が参加している会場もある。昨年と同様「知り合いから誘われて参加する」が利用継続につながっている。

【高齢者生活支援体制整備事業】

生活支援コーディネーターを中心に活動してきた事業も8年が経過した。居場所や仲間づくりを企画してきた。昨年度から活動している「雄和ボランティアの会」は利用者が固定しているが活動が途切れることなく行われている。担い手の方は18名で利用者の方は9名である。

男性の居場所と考えて企画していた「酒を嗜む会」の開催はなかったが「健康麻雀」は令和6年2月から再開し12名～16名の参加で毎月開催している

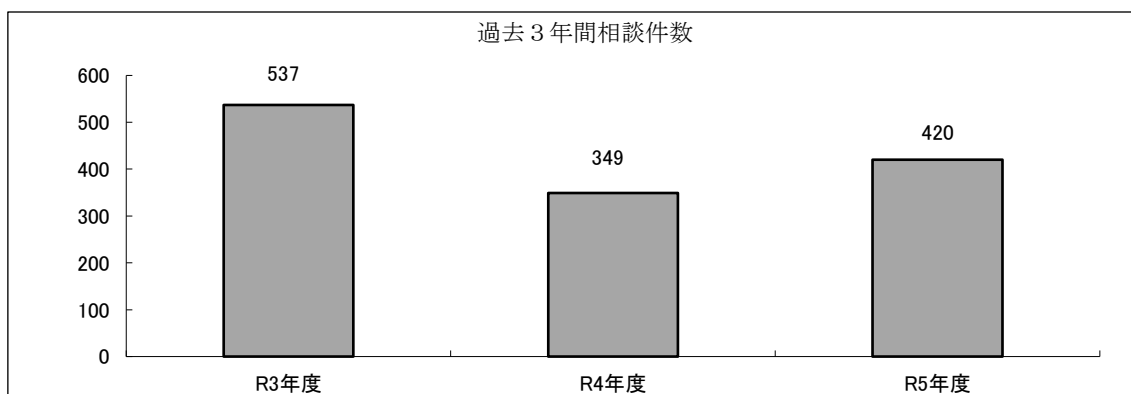
【認知症地域支援・ケア向上事業】

相談件数は5件であったが、見守り訪問や認知症に関する相談窓口として様々な研修等に参加し資質の向上に努めた。包括支援センター職員と連携し地域住民に対し認知症に関する知識の普及、予防や啓発活動、勉強会をおこなった。

1 総合相談支援

(1) 相談件数

	R3年度	R4年度	R5年度
合計	537	349	420



2 権利擁護

	R3 年度	R4 年度	R5 年度
成年後見制度利用件数	0	0	0
消費者被害件数	0	0	0
困難事例件数	0	0	0
その他件数	0	0	0
合計	0	0	0

(虐待又は虐待の疑い)

- ・令和5年度 新規 0件 継続 0件
- ・令和4年度 新規 0件 継続 0件

3 地域包括ケア会議

	R3 年度	R4 年度	R5 年度
開催回数	3	4	5

個別ケア会議 1回

地域ケアネットワーク会議 2回

地域ケア会議 2回

4 高齢者福祉サービス等申請代行、地域連携・他職種連携など

	R3 年度	R4 年度	R5 年度
①高齢者福祉サービス等申請代行件数	137	111	113
②地域連携・他職種連携など件数	16	17	17

①緊急通報システム、食の自立支援、介護申請ほか

②民生委員など会合ほか

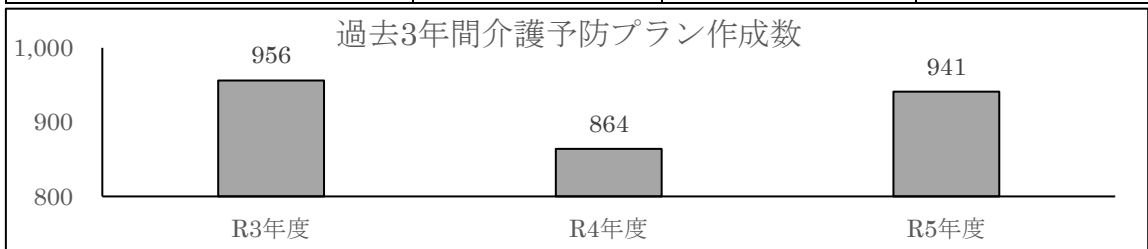
(1) 研修会、地域連携など内容

- ・3職種情報交換会、包括/在介連絡協議会研修会、他各種研修会(オンライン有)
- ・自主活動グループ講座・はつらつくらぶ出前講座・老人クラブ出前講座
- ・雄和地区社協への協力(生き活きの集い:独居者対象事業)
- ・民生児童委員定例会(年7回参加)
- ・福祉懇談会
- ・グループホーム運営推進会議(つばき苑3回/年、赤とんぼ3回/年)
- ・小規模多機能型施設運営推進会議(えがお5回/年)
- ・地域密着型デイサービス運営推進会議*ゆうわの里(年0回)
- ・しゃべこみカフェ(河辺・雄和ケアマネジャー情報交換会)年4回

5 介護予防プラン作成件数（要支援1、要支援2）

*R4年度 委託事業所は10事業所

	R3年度	R4年度	R5年度
①プラン作成（延）件数	956	864	941
②プラン作成月平均件数	79.6	72.0	78.4
③プラン委託月平均件数	18.1	25.3	26.9
③総合事業件数	437	329	339



6 郊外型はつらつくらぶ（月8回開催・6ヶ所）

- ・利用者実人数46名（内男性5名 女性41名）
- ・令和4年度延べ利用人数921名（前年度911名）

7 食の自立支援（配食サービス・週3回まで）

*利用者負担480円 秋田市委託料210円（週4回から自費700円）

(1) 令和5年度月別配食サービス実績

- ・利用人数は18人（R6.3月時点）
- 自費利用も含め複数回利用の方が増えている。

(2) 過去3年間配食サービス実績（自費利用を除く）

	R3年度	R4年度	R5年度
実人数	144	153	153
延食数	1,366	1,386	1,386

8 高齢者生活体制整備事業（生活支援コーディネーター）

(1) アウトリーチ・ネットワークの構築（高齢者の居場所や見守り体制の構築）

①オープンガーデン

- ・花壇等への植付け、草取り、交流会、花壇見学会、花の撤去作業、オープンガーデン反省会等 延参加者 27名（R4年度 22名）

②ウォーキング

- ・月1回 5回実施 延参加者 73名（R4年度 57名）

③カラオケサロン

- ・6/27 7月以降 カラオケ機器の借用運搬の手段なく1回のみの実施 延参加者 5名（R4年度 42名）

④健康麻雀 2回実施 延参加者 32名（R4年度 開催なし）

⑤酒を嗜む会 感染症予防のため中止（R1年度 3回 30名）

⑥ペタンク 第1、第3月曜日 延参加者94名（R4年度 48名）

⑦協議体委員会（雄和地区各種団体から構成、計12名）

- ・年4回開催 関係機関とのネットワークを図る

- ・山形市・天童市 視察研修
- ⑧陶芸教室（いやしろち窯）
 - ・日程調整がつかず中止 延参加者0名（R4年度 48名）
- ⑨映画サロン「銀幕のしらべ」
 - ・12回実施 延参加者511名（R4年度 11回377名）
 - 銀幕カフェ 中止

(2) 地域資源の把握や創出（地域住民により地元資源を探り出す）

- ①ワークショップ
- ・包括支援センターと連携し神ヶ村で2回開催

(3) 地域づくりの意識の統一（地域が一体になり意識の統一を図る）

- ①PR用広報誌発行
- ・ささえあいだより 年2回発行（12月、3月）雄和地区全戸配布

(4) その他（他圏域地域包括支援センターとの情報交換会及び研修会等）

- ・生活支援コーディネーター情報交換会
- ・秋田市ささえあい活動推進ネットワーク会議
- ・南、西圏域コーディネーター意見交換会
- ・生活支援コーディネーター研修会

9 認知症地域支援・ケア向上事業（認知症地域支援推進員）

月	活動内容
6月	・キャラバンメイト養成講座、グループワーク支援 ・コグニサイズ実践者研修受講
7月	・認知症地域支援推進員初任者研修受講
8月～11月	・頭と体の健康教室（コグニサイズ）開催 年間8回開催、参加者6名
9月	・認知症地域支援推進員・生活支援コーディネーターの活動パネル展示 ・市民向け認知症サポーター養成講座開催
10月	・認知症VR体験会開催 ・市民向け認知症サポーターステップアップ講座開催
11月	・認知症出前講座開催
12月	・高齢者等さがしてネットワーク声かけ通報模擬訓練開催 ・みんなでささえあいまちづくり研修会活動発表
1月	・認知症出前講座開催 ・チームオレンジコーディネーター研修受講
2月	・キャラバンメイト向けステップアップ講座活動発表
3月	・認知症出前講座開催 ・みんなでささえあいまちづくり報告会活動発表 ・認知症施策検討委員会出席